

2008年病態別・術式別血液製剤使用量調査報告

2009年05月12日

【症例数】

番号	病態	2008年		平成17年	
		施設数	症例数	施設数	症例数
3-1-1	胃癌（全摘手術例のみ）	347	3795	751	8455
3-2-1	肝細胞癌（亜区域切除例以上）	271	1586	498	3019
3-3-1	心・大動脈疾患（人工心肺使用例のみ）	195	2375	287	5091
3-4-1	直腸癌（前方切除例のみ）	341	3716	737	8385
3-5-1	胸部食道癌（内視鏡術は除く）	231	1119	451	2656
3-6-1	脳腫瘍（神経膠腫又は髄膜腫に限る）	223	1569	433	3415
3-7-1	脳血管疾患（くも膜下出血又は脳内出血に限る。但し予防的脳動脈瘤クリッピングは除く）	241	2777	473	5662
3-8-1	子宮癌（広汎子宮全摘術のみ）	213	1261	354	2668
3-9-1	分娩時異常出血	179	1451	330	4178
3-10-1	急性骨髄性白血病（16歳以上かつ化学療法のみ。）	177	1130	289	2337
3-10-2	急性リンパ性白血病（15歳以下かつ化学療法のみ）	136	200	107	368
3-10-3	急性白血病（同種造血幹細胞移植例）	143	392	111	639

- (1) 貴医療機関において、下記疾患について、外科手術等を実施した症例（患者は20歳以上、但し、「10 3-10-3 急性白血病」は、一部小児を含む）、について、症例毎に、2008年1月1日から2008年12月31日まで遡って、直近の連続した20例の実績を下記の調査票（3-1-1～3-10-3）に記入して下さい。但し、胃癌、肝細胞癌、心・大血管疾患、直腸癌、胸部食道癌、脳腫瘍、脳血管疾患、子宮癌は、手術後3日以内の再手術は除いてください。
- (2) 調査表の各項目について、記入又は該当する箇所に○を付けて下さい。
- (3) 自己血輸血法：貯血式（手術前に自己の血液を予め採血、保存する方法）、希釈式（手術開始前に採血し、人工膠質液を輸注する方法）、回収式（術中・術後に出血した血液を回収する方法）
- (4) 効率的血液準備法として、活用した方法（T&S法、MSBOS、SBOE、該当無し）で該当するものに○を付けて下さい。
- (5) アルブミン製剤（血漿蛋白製剤も含む）、免疫グロブリン製剤はgに換算し記入して下さい
- (6) FFP-LR-1は1.5単位、FFP-LR-2は3単位として計算して下さい
- (7) 手術時の総使用量は、手術前3日～手術後3日の輸血量と定義します。

3-1-1 胃癌(全摘手術例のみ)

【3-1-1 年間症例数】

年度	病床数	施設数	最小	最大	平均	合計値	標準偏差
2008年	201～299床	68	1	55	8.07	549	10.28
	300～499床	126	1	70	14.41	1815	12.40
	500床以上	85	2	178	28.19	2396	26.70
	全体	279	1	178	17.06	4760	19.26
平成17年	全体	638	1	130	14.72	9390	14.78

【3-1-1 効率的血液準備法】

番号	項目	2008年		平成17年	
		症例数	比率	症例数	比率
1	T&S法	162	63.53%	292	62.39%
2	MSBOS	17	6.67%	37	7.91%
3	SBOE	2	0.78%	4	0.85%
4	該当無し	74	29.02%	135	28.85%
	合計	255		468	

【3-1-1 性別】

番号	項目	2008年		平成17年	
		症例数	比率	症例数	比率
1	男	2779	73.91%	6041	71.75%
2	女	981	26.09%	2378	28.25%
	合計	3760		8419	

【3-1-1 年齢】

番号	項目	2008年		平成17年	
		症例数	比率	症例数	比率
1	15才以下			6	0.07%
2	16才～19才			1	0.01%
3	20～39才	55	1.45%	135	1.62%
4	40～65才	1308	34.56%	3129	37.59%
5	65才以上	2422	63.99%	5052	60.70%
	合計	3785		8323	

【3-1-1 リンパ節郭清】

番号	項目	2008年		平成17年	
		症例数	比率	症例数	比率
1	D0	109	3.92%	278	3.96%
2	D1	894	32.12%	2238	31.91%
3	D2	1581	56.81%	4251	60.61%
4	D2以上	199	7.15%	247	3.52%
	合計	2783		7014	

【3-1-1 Stage(分類法)】

番号	項目	2008年		平成17年	
		症例数	比率	症例数	比率
1	癌取扱い規約	2312	77.07%		
2	UICCのTMN分類	650	21.67%		
3	その他	38	1.27%		
	合計	3000			

平成17年データなし

【3-1-1 Stage】

3-1-1 胃癌 Stage.xls 参照

【3-1-1 術式】

番号	項目	2008年		平成17年	
		症例数	比率	症例数	比率
1	開腹手術	3332	94.15%		
2	腹腔鏡(補助)下手術	207	5.85%		
	合計	3539			

平成17年データなし

【3-1-1 主な合併症】

番号	項目	2008年		平成17年	
		症例数	比率	症例数	比率
1	あり	764	26.52%	3073	39.86%
2	なし	2117	73.48%	4637	60.14%
	合計	2881		7710	

【3-1-1 出血量/ml】

年度	症例数	最小	最大	平均	合計値	標準偏差
2008年	3197	5	7392	538.51	1721607	579.39
平成17年	7920	4	11500	576.53	4566082	556.62

【3-1-1 血液製剤投与の有無】

番号	項目	2008年		平成17年	
		症例数	比率	症例数	比率
1	日赤製剤のみ	952	26.63%	2803	35.28%
2	日赤血と自己血併用	0	0.00%		
3	自己血のみ	15	0.42%	100	1.26%
4	なし	2608	72.95%	5042	63.46%
	合計	3575		7945	

2.日赤血と自己血併用平成17年データなし

【3-1-1 血液製剤使用量】

	年度	施設数	最小	最大	平均	合計値	標準偏差
赤血球濃厚液(総使用量)／単位	2008年	870	1	400	5.53	4813	13.86
	平成17年	2153	1	3800	35.97	77434	198.83
赤血球濃厚液(術中使用量)／単位	2008年	666	1	20	4.21	2807	2.56
	平成17年	1632	1	1300	19.79	32295	101.68
新鮮凍結血漿(総使用量)／単位	2008年	165	2.0	63.0	10.92	1801.0	8.58
	平成17年	597	1.0	8480.0	47.77	28518.0	468.89
新鮮凍結血漿(術中使用量)／単位	2008年	98	2.0	39.0	7.29	714.0	5.34
	平成17年	360	1.0	600.0	11.61	4179.0	47.97
血小板濃厚液(総使用量)／単位	2008年	21	10	90	24.76	520	19.97
	平成17年	67	1	1050	46.54	3118	132.05
血小板濃厚液(術中使用量)／単位	2008年	11	10	50	19.09	210	11.36
	平成17年	29	1	650	39.83	1155	118.12
アルブミン製剤(総使用量)／g	2008年	670	5.0	1500.0	63.85	42781.1	111.65
	平成17年	1776	1.0	3800.0	91.75	162940.0	216.62
アルブミン製剤(術中使用量)／g	2008年	327	8.8	1500.0	54.53	17830.1	131.56
	平成17年	768	1.0	2750.0	78.93	60615.0	194.64
自己血(回収血除く)(採血量)／ml	2008年	18	400	520	412.22	7420	35.74
	平成17年	122	200	1600	545.49	66550	217.91
自己血(回収血除く)(使用量)／ml	2008年	20	400	970	459.50	9190	151.92
	平成17年	120	4	900	525.92	63110	199.58

3-2-1 肝細胞癌(亜区域切除例以上)

【3-2-1 年間症例数】

年度	病床数	施設数	最小	最大	平均	合計値	標準偏差
2008年	201～299床	27	1	8	2.52	68	2.05
	300～499床	88	1	17	4.74	417	4.15
	500床以上	85	1	88	15.2	1292	17.92
	全体	200	1	88	8.89	1777	13.12
平成17年	全体	415	1	200	7.88	3264	14.54

【3-2-1 効率的血液準備法】

番号	項目	2008年		平成17年	
		症例数	比率	症例数	比率
1	T&S法	96	51.89%	163	53.97%
2	MSBOS	29	15.68%	45	14.90%
3	SBOE	2	1.08%	3	0.99%
4	該当無し	58	31.35%	91	30.13%
	合計	185		302	

【3-2-1 性別】

番号	項目	2008年		平成17年	
		症例数	比率	症例数	比率
1	男	1185	75.96%	2240	74.62%
2	女	375	24.04%	762	25.38%
	合計	1560		3002	

【3-2-1 年齢】

番号	項目	2008年		平成17年	
		症例数	比率	症例数	比率
1	15才以下	1	0.06%	2	0.07%
2	16才～19才				
3	20～39才	23	1.46%	42	1.42%
4	40～65才	557	35.43%	1142	38.56%
5	65才以上	991	63.04%	1776	59.96%
	合計	1572		2962	

【3-2-1 切除範囲】

番号	項目	2008年		平成17年	
		症例数	比率	症例数	比率
1	Hrs	332	30.66%	840	34.62%
2	Hr1	370	34.16%	766	31.57%
3	Hr2以上	381	35.18%	820	33.80%
	合計	1083		2426	

【3-2-1 Stage(分類法)】

番号	項目	2008年		平成17年	
		症例数	比率	症例数	比率
1	癌取扱い規約	927	79.64%		
2	UICCのTMN分類	216	18.56%		
3	その他	21	1.80%		
	合計	1164			

平成17年データなし

【3-2-1 Stage】

3-2-1 肝細胞癌 Stage.xls 参照

【3-2-1 主な合併症(肝硬変)】

番号	項目	2008年		平成17年	
		症例数	比率	症例数	比率
1	あり	492	38.74%	1073	42.60%
2	なし	778	61.26%	1446	57.40%
	合計	1270		2519	

【3-2-1 出血量/ml】

年度	症例数	最小	最大	平均	合計値	標準偏差
2008年	1346	10	30000	1357.59	1827319	2380.79
平成17年	2801	1	35276	1321.13	3700482	1974.64

【3-2-1 血液製剤投与の有無】

番号	項目	2008年		平成17年	
		症例数	比率	症例数	比率
1	日赤製剤のみ	632	42.13%	1657	58.70%
2	日赤血と自己血併用	41	2.73%		
3	自己血のみ	94	6.27%	108	3.83%
4	なし	733	48.87%	1058	37.48%
	合計	1500		2823	

2.日赤血と自己血併用平成17年データなし

【3-2-1 血液製剤使用量】

	年度	施設数	最小	最大	平均	合計値	標準偏差
赤血球濃厚液(総使用量)／単位	2008年	509	2	134	8.13	4137	10.94
	平成17年	1018	1	4000	31.91	32484	185.98
赤血球濃厚液(術中使用量)／単位	2008年	451	1	134	7.78	3509	10.93
	平成17年	912	1	4000	27.54	25119	179.09
新鮮凍結血漿(総使用量)／単位	2008年	451	2.0	208.5	17.06	7696.0	17.05
	平成17年	1155	2.0	2080.0	29.85	34471.0	102.10
新鮮凍結血漿(術中使用量)／単位	2008年	328	2.0	144.0	12.31	4037.0	14.00
	平成17年	855	1.0	960.0	13.90	11886.0	48.72
血小板濃厚液(総使用量)／単位	2008年	113	1	80	20.27	2290	11.62
	平成17年	228	1	150000	688.51	156980	9932.04
血小板濃厚液(術中使用量)／単位	2008年	95	1	80	18.47	1755	10.54
	平成17年	159	2	250	22.72	3612	28.90
アルブミン製剤(総使用量)／g	2008年	620	5.0	10500.0	89.19	55300.7	436.16
	平成17年	1125	1.0	21550.0	142.37	160168.0	728.60
アルブミン製剤(術中使用量)／g	2008年	397	1.3	10500.0	83.12	32998.9	534.85
	平成17年	641	1.0	21550.0	132.61	85004.0	956.99
自己血(回収血除く)(採血量)／ml	2008年	140	25	1600	630.79	88310	268.39
	平成17年	241	4	2000	651.57	157029	333.41
自己血(回収血除く)(使用量)／ml	2008年	135	25	1200	557.52	75265	228.01
	平成17年	243	8	2000	631.78	153523	332.25

3-3-1 心・大動脈疾患(人工心肺使用例のみ)

【3-3-1 年間症例数】

年度	病床数	施設数	最小	最大	平均	合計値	標準偏差
2008年	201～299床	9	3	332	87.78	790	132.39
	300～499床	35	1	317	49.14	1720	63.61
	500床以上	67	1	304	63.33	4243	54.20
	全体	111	1	332	60.84	6753	66.29
平成17年	全体	220	2	350	54.71	12037	54.36

【3-3-1 効率的血液準備法】

番号	項目	2008年		平成17年	
		症例数	比率	症例数	比率
1	T&S法	35	31.53%	66	39.05%
2	MSBOS	36	32.43%	36	21.30%
3	SBOE	3	2.70%	1	0.59%
4	該当無し	37	33.33%	66	39.05%
	合計	111		169	

【3-3-1 性別】

番号	項目	2008年		平成17年	
		症例数	比率	症例数	比率
1	男	1439	60.92%	3139	61.90%
2	女	923	39.08%	1932	38.10%
	合計	2362		5071	

【3-3-1 年齢】

番号	項目	2008年		平成17年	
		症例数	比率	症例数	比率
1	15才以下	8	0.34%	73	1.48%
2	16才～19才			10	0.20%
3	20～39才	67	2.84%	150	3.04%
4	40～65才	816	34.61%	1890	38.28%
5	65才以上	1467	62.21%	2814	57.00%
	合計	2358		4937	

【3-3-1 術式】

番号	項目	2008年		平成17年	
		症例数	比率	症例数	比率
1	解離性大動脈瘤手術	263	11.58%		
2	胸部大動脈瘤に対する血管置換術	346	15.23%	966	20.34%
3	弁置換術	1087	47.84%	2292	48.26%
4	冠動脈バイパス術	576	25.35%	1491	31.40%
	合計	2272		4749	

平成20年より「心・大動脈疾患」となったので、平成17年には術式:「解離性大動脈瘤手術」は存在しない。

【3-3-1 主な合併症】

番号	項目	2008年		平成17年	
		症例数	比率	症例数	比率
1	あり	820	43.57%	2553	55.69%
2	なし	1062	56.43%	2031	44.31%
	合計	1882		4584	

【3-3-1 出血量/ml】

年度	症例数	最小	最大	平均	合計値	標準偏差
2008年	1775	3	40000	1195.12	2121343	1763.77
平成17年	4396	4	30000	1091.64	4798850	1521.38

【3-3-1 血液製剤投与の有無】

番号	項目	2008年		平成17年	
		症例数	比率	症例数	比率
1	日赤製剤のみ	1620	71.30%	3974	80.56%
2	日赤血と自己血併用	188	8.27%		
3	自己血のみ	263	11.58%	542	10.99%
4	なし	201	8.85%	417	8.45%
	合計	2272		4933	

2.日赤血と自己血併用平成17年データなし

【3-3-1 血液製剤使用量】

	年度	施設数	最小	最大	平均	合計値	標準偏差
赤血球濃厚液(総使用量)／単位	2008年	1742	1	122	14.24	24800	11.68
	平成17年	3510	1	10600	44.85	157420	360.49
赤血球濃厚液(術中使用量)／単位	2008年	1609	1	96	10.67	17170	8.44
	平成17年	3149	1	4800	20.66	65062	150.58
新鮮凍結血漿(総使用量)／単位	2008年	1541	2.0	662.5	19.65	30286.4	24.12
	平成17年	2904	1.0	2400.0	25.09	72862.0	97.68
新鮮凍結血漿(術中使用量)／単位	2008年	1395	2.0	225.0	14.24	19863.4	12.80
	平成17年	2483	1.0	1280.0	15.06	37388.0	53.41
血小板濃厚液(総使用量)／単位	2008年	1135	2	180	27.11	30769	18.30
	平成17年	2104	1	950	33.45	70373	57.05
血小板濃厚液(術中使用量)／単位	2008年	969	2	120	22.66	21958	12.44
	平成17年	1699	1	950	26.76	45473	49.24
アルブミン製剤(総使用量)／g	2008年	1358	5.0	12800.0	71.73	97410.3	364.48
	平成17年	2817	1.0	3750.0.0	88.66	249748.0	175.70
アルブミン製剤(術中使用量)／g	2008年	1047	2.5	12800.0	56.74	59402.2	405.06
	平成17年	2136	1.0	2500.0	67.57	144339.0	148.51
自己血(回収血除く)(採血量)／ml	2008年	438	80	2500	827.91	362625	390.19
	平成17年	999	1	4940	763.92	763156	375.64
自己血(回収血除く)(使用量)／ml	2008年	453	150	2400	804.25	364325	372.17
	平成17年	998	20	3950	752.48	750980	354.04

3-4-1 直腸癌(前方切除例のみ)

【3-4-1 年間症例数】

年度	病床数	施設数	最小	最大	平均	合計値	標準偏差
2008年	201～299床	65	1	19	6.03	392	4.93
	300～499床	122	1	72	12.76	1557	10.57
	500床以上	83	1	116	28.34	2352	21.59
	全体	270	1	116	15.93	4301	16.55
平成17年	全体	627	1	622	17.24	10812	33.27

【3-4-1 効率的血液準備法】

番号	項目	2008年		平成17年	
		症例数	比率	症例数	比率
1	T&S法	148	62.45%	268	61.89%
2	MSBOS	18	7.59%	34	7.85%
3	SBOE	3	1.27%	2	0.46%
4	該当無し	68	28.69%	129	29.79%
	合計	237		433	

【3-4-1 性別】

番号	項目	2008年		平成17年	
		症例数	比率	症例数	比率
1	男	2367	64.46%	5252	62.97%
2	女	1305	35.54%	3089	37.03%
	合計	3672		8341	

【3-4-1 年齢】

番号	項目	2008年		平成17年	
		症例数	比率	症例数	比率
1	15才以下			8	0.10%
2	16才～19才	1	0.03%	1	0.01%
3	20～39才	67	1.81%	126	1.53%
4	40～65才	1576	42.61%	3560	43.25%
5	65才以上	2055	55.56%	4536	55.11%
	合計	3699		8231	

【3-4-1 リンパ節郭清】

番号	項目	2008年		平成17年	
		症例数	比率	症例数	比率
1	D0	71	2.61%	133	1.87%
2	D1	217	7.97%	890	12.54%
3	D2	1165	42.80%	3499	49.32%
4	D2以上	1269	46.62%	2573	36.26%
	合計	2722		7095	

【3-4-1 Stage(分類法)】

番号	項目	2008年		平成17年	
		症例数	比率	症例数	比率
1	癌取扱い規約	2297	78.02%		
2	UICCのTMN分類	617	20.96%		
3	その他	30	1.02%		
	合計	2944			

平成17年データなし

【3-4-1 Stage】

3-4-1 直腸癌 Stage.xls 参照

【3-4-1 術式】

番号	項目	2008年		平成17年	
		症例数	比率	症例数	比率
1	開腹手術	2773	80.26%		
2	腹腔鏡(補助)下手術	682	19.74%		
	合計	3455			

平成17年データなし

【3-4-1 主な合併症】

番号	項目	2008年		平成17年	
		症例数	比率	症例数	比率
1	あり	702	24.62%	2875	37.23%
2	なし	2149	75.38%	4847	62.77%
	合計	2851		7722	

【3-4-1 出血量/ml】

年度	症例数	最小	最大	平均	合計値	標準偏差
2008年	3015	2	8300	381.87	1151347	517.31
平成17年	7575	3	12000	393.93	2984007	513.05

【3-4-1 血液製剤投与の有無】

番号	項目	2008年		平成17年	
		症例数	比率	症例数	比率
1	日赤製剤のみ	554	15.70%	1448	18.29%
2	日赤血と自己血併用	6	0.17%		
3	自己血のみ	39	1.11%	86	1.09%
4	なし	2929	83.02%	6383	80.62%
	合計	3528		7917	

2.日赤血と自己血併用平成17年データなし

【3-4-1 血液製剤使用量】

	年度	施設数	最小	最大	平均	合計値	標準偏差
赤血球濃厚液(総使用量)／単位	2008年	530	1	42	4.80	2543	3.68
	平成17年	1099	1	1680	26.96	29625	140.40
赤血球濃厚液(術中使用量)／単位	2008年	383	1	42	4.26	1633	3.45
	平成17年	781	1	1680	19.14	14948	116.75
新鮮凍結血漿(総使用量)／単位	2008年	130	1.5	48.0	10.28	1336.5	7.99
	平成17年	315	1.0	2000.0	25.13	7917.0	132.46
新鮮凍結血漿(術中使用量)／単位	2008年	74	1.5	37.0	7.45	551.5	5.85
	平成17年	191	1.0	480.0	10.57	2018.0	44.69
血小板濃厚液(総使用量)／単位	2008年	20	10	60	25.75	515	14.35
	平成17年	43	1	305	50.84	2186	72.70
血小板濃厚液(術中使用量)／単位	2008年	10	10	40	23.00	230	9.49
	平成17年	21	2	520	36.43	765	111.24
アルブミン製剤(総使用量)／g	2008年	343	1.0	662.5	48.38	16595.6	61.72
	平成17年	907	1.0	2000.0	89.80	81445.0	187.98
アルブミン製剤(術中使用量)／g	2008年	174	2.5	500.0	38.09	6626.8	65.65
	平成17年	393	1.0	2000.0	63.30	24877	162.17
自己血(回収血除く)(採血量)／ml	2008年	42	130	1200	481.67	20230	227.54
	平成17年	92	2	800	534.21	49147	199.10
自己血(回収血除く)(使用量)／ml	2008年	37	200	1230	511.62	18930	258.09
	平成17年	95	2	800	510.85	48531	201.44

3-5-1 胸部食道癌(内視鏡術は除く)

【3-5-1 年間症例数】

年度	病床数	施設数	最小	最大	平均	合計値	標準偏差
2008年	201～299床	22	1	19	2.59	57	3.84
	300～499床	67	1	52	4.07	273	6.97
	500床以上	70	1	93	14.39	1007	18.09
	全体	159	1	93	8.41	1337	13.92
平成17年	全体	390	1	126	7.85	3062	14.10

【3-5-1 効率の血液準備法】

番号	項目	2008年		平成17年	
		症例数	比率	症例数	比率
1	T&S法	82	55.03%	139	54.30%
2	MSBOS	18	12.08%	37	14.45%
3	SBOE	3	2.01%	2	0.78%
4	該当無し	46	30.87%	78	30.47%
	合計	149		256	

【3-5-1 性別】

番号	項目	2008年		平成17年	
		症例数	比率	症例数	比率
1	男	922	82.76%	2235	84.60%
2	女	192	17.24%	407	15.40%
	合計	1114		2642	

【3-5-1 年齢】

番号	項目	2008年		平成17年	
		症例数	比率	症例数	比率
1	15才以下	1	0.09%	3	0.12%
2	16才～19才				
3	20～39才	3	0.27%	8	0.31%
4	40～65才	521	46.89%	1415	54.42%
5	65才以上	586	52.75%	1174	45.15%
	合計	1111		2600	

【3-5-1 リンパ節郭清】

番号	項目	2008年		平成17年	
		症例数	比率	症例数	比率
1	D0	35	4.28%	94	4.19%
2	D1	110	13.45%	382	17.03%
3	D2	388	47.43%	1178	52.52%
4	D2以上	285	34.84%	589	26.26%
	合計	818		2243	

【3-5-1 Stage(分類法)】

番号	項目	2008年		平成17年	
		症例数	比率	症例数	比率
1	癌取扱い規約	692	77.58%		
2	UICCのTMN分類	197	22.09%		
3	その他	3	0.34%		
	合計	892			

平成17年データなし

【3-5-1 Stage】

3-5-1 胸部食道癌 Stage.xls

参照

【3-5-1 術式】

番号	項目	2008年		平成17年	
		症例数	比率	症例数	比率
1	開胸手術	787	73.21%		
2	胸腔鏡(補助)下手術	288	26.79%		
	合計	1075			

平成17年データなし

【3-5-1 主な合併症】

番号	項目	2008年		平成17年	
		症例数	比率	症例数	比率
1	あり	293	32.41%	1013	42.12%
2	なし	611	67.59%	1392	57.88%
	合計	904		2405	

【3-5-1 出血量/ml】

年度	症例数	最小	最大	平均	合計値	標準偏差
2008年	987	5	14735	638.97	630661	744.22
平成17年	2508	10	6562	646.43	1621249	543.23

【3-5-1 血液製剤投与の有無】

番号	項目	2008年		平成17年	
		症例数	比率	症例数	比率
1	日赤製剤のみ	395	37.58%	1398	56.30%
2	日赤血と自己血併用	16	1.52%		
3	自己血のみ	41	3.90%	153	6.16%
4	なし	599	56.99%	932	37.54%
	合計	1051		2483	

2.日赤血と自己血併用平成17年データなし

【3-5-1 術前の併用療法】

番号	項目	2008年		平成17年	
		症例数	比率	症例数	比率
1	化学療法	199	86.90%		
2	放射線療法	30	13.10%		
	合計	229			

平成17年データなし

【3-5-1 血液製剤使用量】

	年度	施設数	最小	最大	平均	合計値	標準偏差
赤血球濃厚液(総使用量)／単位	2008年	324	1	800	8.09	2620	44.66
	平成17年	764	1	3600	29.85	22803	201.81
赤血球濃厚液(術中使用量)／単位	2008年	240	1	400	6.68	1602	26.51
	平成17年	506	1	800	11.61	5875	57.08
新鮮凍結血漿(総使用量)／単位	2008年	88	1.5	159.0	13.59	1196.0	17.92
	平成17年	415	2.0	800.0	20.61	8552.0	63.33
新鮮凍結血漿(術中使用量)／単位	2008年	55	1.5	159.0	11.48	631.5	20.97
	平成17年	234	1.0	480.0	14.04	3286.0	55.15
血小板濃厚液(総使用量)／単位	2008年	13	10	60	28.46	370	17.49
	平成17年	41	6	200	34.00	1394	39.53
血小板濃厚液(術中使用量)／単位	2008年	8	10	50	27.50	220	15.58
	平成17年	18	2	40	13.11	236	9.19
アルブミン製剤(総使用量)／g	2008年	638	4.4	1750.0	82.47	52617.7	128.77
	平成17年	1310	1.0	3250.0	127.65	167224.0	274.83
アルブミン製剤(術中使用量)／g	2008年	388	1.5	1750.0	51.65	20039.9	137.39
	平成17年	630	1.0	2250.0	63.29	39872.0	172.61
自己血(回収血除く)(採血量)／ml	2008年	70	360	1200	611.00	42770	250.60
	平成17年	325	2	2000	671.83	218345	338.44
自己血(回収血除く)(使用量)／ml	2008年	62	200	1200	541.45	33570	222.11
	平成17年	316	2	1600	576.44	182154	354.52

3-6-1 脳腫瘍(神経膠腫又は髄膜腫に限る)

【3-6-1 年間症例数】

年度	病床数	施設数	最小	最大	平均	合計値	標準偏差
2008年	201～299床	16	1	20	4.31	69	5.19
	300～499床	66	1	50	5.89	389	7.20
	500床以上	79	1	200	18.13	1432	25.40
	全体	161	1	200	11.74	1890	19.44
平成17年	全体	368	1	119	10.90	4011	15.20

【3-6-1 効率的血液準備法】

番号	項目	2008年		平成17年	
		症例数	比率	症例数	比率
1	T&S法	87	58.00%	152	60.32%
2	MSBOS	16	10.67%	17	6.75%
3	SBOE	2	1.33%	1	04.0%
4	該当無し	45	30.00%	82	32.54%
	合計	150		252	

【3-6-1 性別】

番号	項目	2008年		平成17年	
		症例数	比率	症例数	比率
1	男	678	43.49%	1438	42.43%
2	女	881	56.51%	1951	57.57%
	合計	1559		3389	

【3-6-1 年齢】

番号	項目	2008年		平成17年	
		症例数	比率	症例数	比率
1	15才以下	18	1.16%	56	1.73%
2	16才～19才	6	0.39%	31	0.96%
3	20～39才	161	10.37%	390	12.03%
4	40～65才	775	49.90%	1620	49.98%
5	65才以上	593	38.18%	1144	35.30%
	合計	1553		3241	

【3-6-1 疾患名】

番号	項目	2008年		平成17年	
		症例数	比率	症例数	比率
1	神経膠腫	487	35.16%	1262	40.91%
2	髄膜腫	898	64.84%	1823	59.09%
	合計	1385		3085	

【3-6-1 Stage(分類法)】

番号	項目	2008年		平成17年	
		症例数	比率	症例数	比率
1	癌取扱い規約	82	26.20%		
2	UICCのTMN分類	60	19.17%		
3	その他	171	54.63%		
	合計	313			

平成17年データなし

【3-6-1 Stage】

3-6-1 脳腫瘍 Stage.xls 参照

【3-6-1 主な合併症】

番号	項目	2008年		平成17年	
		症例数	比率	症例数	比率
1	あり	329	25.93%	777	25.25%
2	なし	940	74.07%	2300	74.75%
	合計	1269		3077	

【3-6-1 出血量/ml】

年度	症例数	最小	最大	平均	合計値	標準偏差
2008年	1171	1	10000	442.25	517873	709.66
平成17年	2875	2	7155	466.25	1340482	615.69

【3-6-1 血液製剤投与の有無】

番号	項目	2008年		平成17年	
		症例数	比率	症例数	比率
1	日赤製剤のみ	186	12.47%	734	22.70%
2	日赤血と自己血併用	14	0.94%		
3	自己血のみ	134	8.99%	271	8.38%
4	なし	1157	77.60%	2229	68.92%
	合計	1491		3234	

2.日赤血と自己血併用平成17年データなし

【3-6-1 血液製剤使用量】

	年度	施設数	最小	最大	平均	合計値	標準偏差
赤血球濃厚液(総使用量)／単位	2008年	188	1	560	9.16	1722	40.75
	平成17年	620	1	1600	48.10	29821	180.29
赤血球濃厚液(術中使用量)／単位	2008年	162	1	560	9.04	1465	43.85
	平成17年	468	1	1600	35.43	16580	161.32
新鮮凍結血漿(総使用量)／単位	2008年	47	1.5	45.0	9.86	463.5	9.37
	平成17年	135	1.0	480.0	10.62	1434.0	41.11
新鮮凍結血漿(術中使用量)／単位	2008年	36	1.5	36.0	9.82	353.5	7.98
	平成17年	100	1.0	20.0	6.29	629.0	4.16
血小板濃厚液(総使用量)／単位	2008年	22	10	40	17.73	390	11.10
	平成17年	47	5	250	35.68	1677	49.19
血小板濃厚液(術中使用量)／単位	2008年	15	10	40	17.33	260	9.61
	平成17年	24	2	40	15.71	377	7.96
アルブミン製剤(総使用量)／g	2008年	77	2.5	500.0	45.82	3528.0	64.06
	平成17年	205	1.0	8750.0	162.94	33402.0	690.03
アルブミン製剤(術中使用量)／g	2008年	57	12.5	500.0	42.84	2442.0	71.86
	平成17年	141	1.0	2250.0	107.15	15108.0	281.27
自己血(回収血除く)(採血量)／ml	2008年	156	160	1200	542.33	84604	235.41
	平成17年	359	2	1620	526.50	189014	247.35
自己血(回収血除く)(使用量)／ml	2008年	142	100	1200	483.75	68693	211.60
	平成17年	313	100	1610	515.37	161310	237.99

3-7-1 脳血管疾患(くも膜下出血又は脳内出血に限る。但し予防的脳動脈瘤クリッピングは除く。)

【3-7-1 年間症例数】

年度	病床数	施設数	最小	最大	平均	合計値	標準偏差
2008年	201～299床	24	1	57	15.33	368	13.67
	300～499床	71	1	82	17.46	1240	14.93
	500床以上	77	1	113	23.09	1778	18.98
	全体	172	1	113	19.69	3386	16.92
平成17年	全体	394	1	233	19.73	7775	24.57

【3-7-1 効率的血液準備法】

番号	項目	2008年		平成17年	
		症例数	比率	症例数	比率
1	T&S法	97	57.40%	143	55.00%
2	MSBOS	14	8.28%	19	7.31%
3	SBOE	1	0.59%	0	0.00%
4	該当無し	57	33.73%	98	37.69%
	合計	169		260	

【3-7-1 性別】

番号	項目	2008年		平成17年	
		症例数	比率	症例数	比率
1	男	1219	44.01%	2700	48.14%
2	女	1551	55.99%	2909	51.86%
	合計	2770		5609	

【3-7-1 年齢】

番号	項目	2008年		平成17年	
		症例数	比率	症例数	比率
1	15才以下	8	0.29%	29	0.54%
2	16才～19才	6	0.22%	9	0.17%
3	20～39才	149	5.40%	246	4.58%
4	40～65才	1368	49.55%	2696	50.17%
5	65才以上	1230	44.55%	2394	44.55%
	合計	2761		5374	

【3-7-1 疾患名】

番号	項目	2008年		平成17年	
		症例数	比率	症例数	比率
1	くも膜下出血	1555	58.50%	2445	44.29%
2	脳内出血	1103	41.50%	3076	55.71%
	合計	2658		5521	

【3-7-1 主な合併症】

番号	項目	2008年		平成17年	
		症例数	比率	症例数	比率
1	あり	767	34.06%	2296	44.61%
2	なし	1485	65.94%	2851	55.39%
	合計	2252		5147	

【3-7-1 出血量/ml】

年度	症例数	最小	最大	平均	合計値	標準偏差
2008年	1942	1	8068	272.95	530078	430.15
平成17年	4176	1	6468	270.76	1130694	375.88

【3-7-1 血液製剤投与の有無】

番号	項目	2008年		平成17年	
		症例数	比率	症例数	比率
1	あり	673	25.84%	1438	26.57%
2	なし	1931	74.16%	3974	73.43%
	合計	2604		5412	

【3-7-1 血液製剤使用量】

	年度	施設数	最小	最大	平均	合計値	標準偏差
赤血球濃厚液(総使用量)／単位	2008年	567	1	60	4.76	2697	4.18
	平成17年	1127	1	1600	26.39	29742	132.38
赤血球濃厚液(術中使用量)／単位	2008年	375	1	60	4.11	1541	3.90
	平成17年	530	1	1260	25.58	13555	126.75
新鮮凍結血漿(総使用量)／単位	2008年	164	2.0	40.0	8.69	1425.0	6.10
	平成17年	289	1.0	960.0	11.88	3432.0	57.23
新鮮凍結血漿(術中使用量)／単位	2008年	126	2.0	35.0	7.58	955.5.0	4.58
	平成17年	146	1.0	30.0	5.79	845.0	4.34
血小板濃厚液(総使用量)／単位	2008年	67	10	65	21.42	1435	12.46
	平成17年	114	1	550	28.53	3252	54.80
血小板濃厚液(術中使用量)／単位	2008年	45	10	40	17.44	785	8.64
	平成17年	52	2	50	16.96	882	8.57
アルブミン製剤(総使用量)／g	2008年	175	5.0	1215.0	68.26	11945.0	123.45
	平成17年	549	1.0	2000.0	109.67	60211.0	226.69
アルブミン製剤(術中使用量)／g	2008年	72	5.0	312.5	34.43	2479.0	52.94
	平成17年	139	1.0	1750.0	74.44	10347.0	195.50

3-8-1 子宮癌(広汎子宮全摘術のみ)

【3-8-1 年間症例数】

年度	病床数	施設数	最小	最大	平均	合計値	標準偏差
2008年	201～299床	10	1	31	7.10	71	9.75
	300～499床	44	1	22	4.82	212	5.13
	500床以上	78	1	74	11.56	902	12.45
	全体	132	1	74	8.98	1185	10.78
平成17年	全体	296	1	80	9.07	2684	10.61

【3-8-1 効率的血液準備法】

番号	項目	2008年		平成17年	
		症例数	比率	症例数	比率
1	T&S法	80	61.54%	132	65.02%
2	MSBOS	15	11.54%	23	11.33%
3	SBOE	4	3.08%	0	0.00%
4	該当無し	31	23.85%	48	23.65%
	合計	130		203	

【3-8-1 年齢】

番号	項目	2008年		平成17年	
		症例数	比率	症例数	比率
1	15才以下				
2	16才～19才			1	0.04%
3	20～39才	237	18.85%	524	19.79%
4	40～65才	833	66.27%	1754	66.24%
5	65才以上	187	14.88%	369	13.94%
	合計	1257		2648	

【3-8-1Stage(分類法)】

番号	項目	2008年		平成17年	
		症例数	比率	症例数	比率
1	癌取扱い規約	665	72.05%		
2	UICCのTMN分類	201	21.78%		
3	その他	57	6.18%		
	合計	923			

平成17年データなし

【3-8-1Stage】

3-8-1 子宮癌 Stage.xls 参照

【3-8-1 主な合併症】

番号	項目	2008年		平成17年	
		症例数	比率	症例数	比率
1	あり	163	17.09%	529	22.67%
2	なし	791	82.91%	1804	77.33%
	合計	954		2333	

【3-8-1 出血量/ml】

年度	症例数	最小	最大	平均	合計値	標準偏差
2008年	1069	10	6750	1005.88	1075284	929.11
平成17年	2482	20	25225	1093.20	2713327	1124.29

【3-8-1 血液製剤投与の有無】

番号	項目	2008年		平成17年	
		症例数	比率	症例数	比率
1	日赤製剤のみ	210	17.24%	712	27.91%
2	日赤血と自己血併用	60	4.93%		
3	自己血のみ	440	36.12%	839	32.89%
4	なし	508	41.71%	1000	39.20%
	合計	1218		2551	

2.日赤血と自己血併用平成17年データなし

【3-8-1 血液製剤使用量】

	年度	施設数	最小	最大	平均	合計値	標準偏差
赤血球濃厚液(総使用量)／単位	2008年	256	1	400	7.18	1837	24.98
	平成17年	640	1	1600	30.58	19569	135.86
赤血球濃厚液(術中使用量)／単位	2008年	234	1	400	6.86	1605	26.04
	平成17年	592	1	1200	26.25	15539	124.59
新鮮凍結血漿(総使用量)／単位	2008年	81	1.0	30.0	7.76	628.5	5.65
	平成17年	217	1.0	750.0	11.43	2481.0	51.44
新鮮凍結血漿(術中使用量)／単位	2008年	64	1.0	30.0	7.13	456.0	4.53
	平成17年	174	1.0	750.0	11.72	2039.0	57.31
血小板濃厚液(総使用量)／単位	2008年	4	2	60	23.00	92	25.74
	平成17年	20	10	105	26.00	520	22.86
血小板濃厚液(術中使用量)／単位	2008年	2	2	750	376.00	752	528.92
	平成17年	15	2	30	15.27	229	8.18
アルブミン製剤(総使用量)／g	2008年	121	11	250	38.85	4700.5	30.68
	平成17年	273	1	1000	109.04	29769	181.72
アルブミン製剤(術中使用量)／g	2008年	73	11	125	31.45	2295.5	22.70
	平成17年	216	1	1000	103.66	22391	197.73
自己血(回収血除く)(採血量)／ml	2008年	525	200	2400	699.50	367238	301.86
	平成17年	1066	4	2000	712.04	759037	280.13
自己血(回収血除く)(使用量)／ml	2008年	498	9	1700	626.25	311874	271.98
	平成17年	1037	4	2000	658.60	682966	275.54

3-9-1 分娩時異常出血

【3-9-1 年間症例数】

年度	病床数	施設数	最小	最大	平均	合計値	標準偏差
2008年	201～299床	10	1	85	23.3	233	30.36
	300～499床	35	1	241	31.54	1104	54.96
	500床以上	59	1	862	46.58	2748	124.27
	全体	104	1	862	39.28	4085	99.24
平成17年	全体	263	1	463	44.92	11815	79.46

【3-9-1 効率の血液準備法】

番号	項目	2008年		平成17年	
		症例数	比率	症例数	比率
1	T&S法	50	52.08%	84	50.00%
2	MSBOS	3	3.13%	6	3.57%
3	SBOE	1	1.04%	1	0.60%
4	該当無し	42	43.75%	77	45.83%
	合計	96		168	

【3-9-1 年齢】

番号	項目	2008年		平成17年	
		症例数	比率	症例数	比率
1	15才以下	1	0.07%		
2	16才～19才	9	0.62%	63	1.52%
3	20～39才	1320	91.22%	3887	93.87%
4	40～65才	116	8.02%	190	4.59%
5	65才以上	1	0.07%	1	0.02%
	合計	1447		4141	

【3-9-1 主な合併症】

番号	項目	2008年		平成17年	
		症例数	比率	症例数	比率
1	あり	425	32.17%	1456	36.49%
2	なし	896	67.83%	2534	63.51%
	合計	1321		3990	

【3-9-1 出血量/ml】

年度	症例数	最小	最大	平均	合計値	標準偏差
2008年	1378	85	23319	1677.50	2311591	1495.08
平成17年	4020	45	20190	1287.76	5176810	1083.16

【3-9-1 血液製剤投与の有無】

番号	項目	2008年		平成17年	
		症例数	比率	症例数	比率
1	日赤製剤のみ	286	20.49%	480	11.84%
2	日赤血と自己血併用	26	1.86%		
3	自己血のみ	196	14.04%	278	6.86%
4	なし	888	63.61%	3296	81.30%
	合計	1396		4054	

2.日赤血と自己血併用平成17年データなし

【3-9-1 血液製剤使用量】

	年度	施設数	最小	最大	平均	合計値	標準偏差
赤血球濃厚液(総使用量)／単位	2008年	301	1	110	10.87	3272	11.77
	平成17年	434	1	1600	21.68	9411	105.43
赤血球濃厚液(術中使用量)／単位	2008年	197	1	70	9.99	1969	9.50
	平成17年	227	1	800	18.06	4100	77.59
新鮮凍結血漿(総使用量)／単位	2008年	192	2.0	126.0	17.28	3318.0	18.70
	平成17年	246	1.0	960.0	18.32	4506.0	63.30
新鮮凍結血漿(術中使用量)／単位	2008年	136	3.0	108.0	14.16	1926.0	15.44
	平成17年	127	1.0	160.0	12.06	1531.0	15.88
血小板濃厚液(総使用量)／単位	2008年	80	10	125	29.06	2325	23.44
	平成17年	111	2	335	28.65	3180	37.05
血小板濃厚液(術中使用量)／単位	2008年	51	10	105	22.35	1140	17.84
	平成17年	56	1	100	19.25	1078	16.13
アルブミン製剤(総使用量)／g	2008年	92	5.0	337.5	46.79	4304.5	50.02
	平成17年	182	1.0	3000.0	124.73	22701.0	297.79
アルブミン製剤(術中使用量)／g	2008年	55	5.0	750.0	67.79	3728.5	117.02
	平成17年	84	1.0	1500.0	126.24	10604.0	259.06
自己血(回収血除く)(採血量)／ml	2008年	225	30	1700	747.64	168218	346.42
	平成17年	320	2	1800	654.83	209544	301.71
自己血(回収血除く)(使用量)／ml	2008年	231	120	1600	638.06	147391	329.77
	平成17年	303	1	1600	550.48	166796	289.92

【3-9-1 アンチトロンビン製剤使用の有無】

番号	項目	2008年		平成17年	
		症例数	比率	症例数	比率
1	あり	81	7.58%	185	9.38%
2	なし	987	92.42%	1787	90.62%
	合計	1068		1972	

【3-9-1 アンチトロンビン製剤使用量】

	年度	施設数	最小	最大	平均	合計値	標準偏差
アンチトロンビン製剤(使用量)/単位	2008年	81	1	15000	2358.63	191049	2094.30
	平成17年	165	2	15000	2032.10	335296	1969.61

3-10-1 急性骨髄性白血病(16歳以上かつ化学療法のみ。)

【3-10-1 年間症例数】

年度	病床数	施設数	最小	最大	平均	合計値	標準偏差
2008年	201～299床	8	1	35	10.38	83	12.21
	300～499床	35	1	24	6.77	237	6.07
	500床以上	72	1	72	11.88	855	11.58
	全体	115	1	72	10.22	1175	10.44
平成17年	全体	252	1	123	8.99	2265	10.44

【3-10-1 性別】

番号	項目	2008年		平成17年	
		症例数	比率	症例数	比率
1	男	688	61.05%	1385	59.98%
2	女	439	38.95%	924	40.02%
	合計	1127		2309	

【3-10-1 年齢】

番号	項目	2008年		平成17年	
		症例数	比率	症例数	比率
1	15才以下	2	0.18%	3	0.13%
2	16才～19才	14	1.24%	23	1.01%
3	20～39才	147	13.03%	286	12.55%
4	40～65才	459	40.69%	956	41.97%
5	65才以上	506	44.86%	1010	44.34%
	合計	1128		2278	

【3-10-1 初回・再発の区分】

番号	項目	2008年		平成17年	
		症例数	比率	症例数	比率
1	初回	813	75.84%	1652	73.52%
2	再発	259	24.16%	595	26.48%
	合計	1072		2247	

【3-10-1 主な合併症】

番号	項目	2008年		平成17年	
		症例数	比率	症例数	比率
1	感染症	603	59.88%	1463	67.05%
2	DIC	140	13.90%	125	5.73%
3	その他	68	6.75%	146	6.69%
4	なし	196	19.46%	448	20.53%
	合計	1007		2182	

17年データは設問2つを合体させた

【3-10-1 臓器出血の危険性】

番号	項目	2008年		平成17年	
		症例数	比率	症例数	比率
1	あり	588	62.29%		
2	なし	356	37.71%		
	合計	944			

17年データなし

【3-10-1 血液製剤投与の有無】

番号	項目	2008年		平成17年	
		症例数	比率	症例数	比率
1	あり	957	87.80%	2144	95.59%
2	なし	133	12.20%	99	4.41%
	合計	1090		2243	

【3-10-1 血液製剤使用量】

	年度	施設数	最小	最大	平均	合計値	標準偏差
赤血球濃厚液(総使用量)／単位	2008 年	940	2	130	10.82	10172	10.50
	平成 17 年	2007	1	182	10.79	21651	10.03
新鮮凍結血漿(総使用量)／単位	2008 年	78	2.0	113.0	18.17	1417.5	19.19
	平成 17 年	157	2.0	420.0	21.27	3339.0	38.55
血小板濃厚液(総使用量)／単位	2008 年	976	10	790	77.43	75569	78.77
	平成 17 年	2125	2	910	76.96	163548	73.26

3-10-2 急性リンパ性白血病(15歳以下かつ化学療法のみ。)

【3-10-2 年間症例数】

年度	病床数	施設数	最小	最大	平均	合計値	標準偏差
2008年	201～299床	1	7	7	7.00	7	
	300～499床	4	1	5	2.50	10	1.73
	500床以上	34	1	11	4.44	151	2.74
	全体	39	1	11	4.31	168	2.71
平成17年	全体	94	1	14	3.38	314	2.71

【3-10-2 性別】

番号	項目	2008年		平成17年	
		症例数	比率	症例数	比率
1	男	109	55.05%	196	54.14%
2	女	89	44.95%	166	45.86%
	合計	198		362	

【3-10-2 年齢】

番号	項目	2008年		平成17年	
		症例数	比率	症例数	比率
1	15才以下	177	89.39%	292	82.72%
2	16才～19才			9	2.55%
3	20～39才	4	2.02%	17	4.82%
4	40～65才	9	4.55%	22	6.23%
5	65才以上	8	4.04%	13	3.68%
	合計	198		353	

【3-10-2 初回・再発の区分】

番号	項目	2008年		平成17年	
		症例数	比率	症例数	比率
1	初回	166	89.73%	312	89.40%
2	再発	19	10.27%	37	10.60%
	合計	185		349	

【3-10-2 主な合併症】

番号	項目	2008年		平成17年	
		症例数	比率	症例数	比率
1	感染症	68	35.98%	153	45.26%
2	DIC	2	1.06%	14	4.14%
3	その他	20	10.58%	43	12.72%
4	なし	99	52.38%	128	37.87%
	合計	189		338	

17年データは設問2つを合体させた

【3-10-2 臓器出血の危険性】

番号	項目	2008年		平成17年	
		症例数	比率	症例数	比率
1	あり	57	31.84%		
2	なし	122	68.16%		
	合計	179			

17年データなし

【3-10-2 血液製剤投与の有無】

番号	項目	2008年		平成17年	
		症例数	比率	症例数	比率
1	あり	155	82.01%	314	92.35%
2	なし	34	17.99%	26	7.65%
	合計	189		340	

【3-10-2 寛解・不応の区分】

番号	項目	2008年		平成17年	
		症例数	比率	症例数	比率
1	寛解	167	95.43%	295	93.65%
2	不応	8	4.57%	20	6.35%
	合計	175		315	

【3-10-2 血液製剤使用量】

	年度	施設数	最小	最大	平均	合計値	標準偏差
赤血球濃厚液(総使用量)／単位	2008年	152	1	52	7.80	1185	6.54
	平成17年	312	1	360	9.41	2936	23.32
新鮮凍結血漿(総使用量)／単位	2008年	32	1.5	54.0	12.88	412.0	14.15
	平成17年	96	1.0	108.0	14.68	1409.0	20.81
血小板濃厚液(総使用量)／単位	2008年	130	5	340	60.65	7885	57.60
	平成17年	282	2	515	58.39	16467	60.35

【3-10-2 免疫グロブリン製剤】

	年度	施設数	最小	最大	平均	合計値	標準偏差
免疫グロブリン製剤(総使用量)／g	2008年	48	1	20	7.98	383	5.13
	平成17年						
免疫グロブリン製剤(総投与回数)／回	2008年	48	1	10	2.79	134	1.77
	平成17年						

17年データなし

【3-10-2 免疫グロブリン製剤(使用理由)】

番号	項目	2008 年		平成 17 年	
		症例数	比率	症例数	比率
1	重症感染症	32	49.23%		
2	無顆粒球症	7	10.77%		
3	その他	26	40.00%		
	合計	65			

17 年データなし

3-10-3 急性白血病(20歳以上、同種造血幹細胞移植症例)

【3-10-3 年間症例数】

年度	病床数	施設数	最小	最大	平均	合計値	標準偏差
2008年	201～299床	1	21	21	21.00	21	
	300～499床	10	1	23	5.80	58	6.81
	500床以上	46	1	40	7.59	349	8.04
	全体	57	1	40	7.51	428	7.95
平成17年	全体	95	1	36	5.86	557	5.68

【3-10-3 性別】

番号	項目	2008年		平成17年	
		症例数	比率	症例数	比率
1	男	230	58.82%	375	58.87%
2	女	161	41.18%	262	41.13%
	合計	391		637	

【3-10-3 年齢】

番号	項目	2008年		平成17年	
		症例数	比率	症例数	比率
1	15才以下	7	1.80%	10	1.61%
2	16才～19才	6	1.55%	14	2.25%
3	20～39才	113	29.12%	226	36.39%
4	40～65才	253	65.21%	353	56.84%
5	65才以上	9	2.32%	18	2.90%
	合計	388		621	

【3-10-3 移植のタイプ】

番号	項目	2008年		平成17年	
		症例数	比率	症例数	比率
1	骨髄移植（血縁・非血縁）	219	56.30%	360	57.60%
2	臍帯血幹細胞移植	82	21.08%	125	20.00%
3	末梢血幹細胞移植	88	22.62%	140	22.40%
	合計	389		625	

【3-10-3 疾患のタイプ】

番号	項目	2008年		平成17年	
		症例数	比率	症例数	比率
1	リンパ性	127	32.99%	191	37.38%
2	骨髄性	258	67.01%	320	62.62%
	合計	385		511	

【3-10-3 主な合併症】

番号	項目	2008年		平成17年	
		症例数	比率	症例数	比率
1	感染症	196	57.31%	412	68.21%
2	DIC	7	2.05%	4	0.66%
3	その他	24	7.02%	66	10.93%
4	なし	115	33.63%	122	20.20%
	合計	342		604	

17年データは設問2つを合体させた

【3-10-3 臓器出血の危険性】

番号	項目	2008年		平成17年	
		症例数	比率	症例数	比率
1	あり	184	54.76%		
2	なし	152	45.24%		
	合計	336			

17年データなし

【3-10-3 血液製剤投与の有無】

番号	項目	2008年		平成17年	
		症例数	比率	症例数	比率
1	あり	372	96.37%	621	98.42%
2	なし	14	3.63%	10	1.58%
	合計	386		631	

【3-10-3 血液製剤使用量】

	年度	施設数	最小	最大	平均	合計値	標準偏差
赤血球濃厚液(総使用量)／単位	2008年	321	2	66	9.45	3035	7.65
	平成17年	522	1	76	10.81	5643	8.85
新鮮凍結血漿(総使用量)／単位	2008年	55	4.0	199.0	34.35	1889.5	40.73
	平成17年	66	2.0	556.0	54.38	3589.0	87.85
血小板濃厚液(総使用量)／単位	2008年	377	10	755	122.47	46170	83.81
	平成17年	630	8	515	122.20	76989	78.65

【3-10-3 免疫グロブリン製剤】

	年度	施設数	最小	最大	平均	合計値	標準偏差
免疫グロブリン製剤(総使用量)／g	2008年	215	2.5	85	19.54	4200.5	13.27
	平成17年	381	2	159	19.38	7385	14.86
免疫グロブリン製剤(総投与回数)／回	2008年	214	1	120	4.99	1067	9.80
	平成17年	379	1	25	3.74	1419	2.26

【3-10-3 免疫グロブリン製剤(使用理由)】

番号	項目	2008年		平成17年	
		症例数	比率	症例数	比率
1	重症感染症	121	63.35%	183	49.19%
2	無顆粒球症	32	16.75%	41	11.02%
3	その他	38	19.90%	148	39.78%
	合計	191		372	